

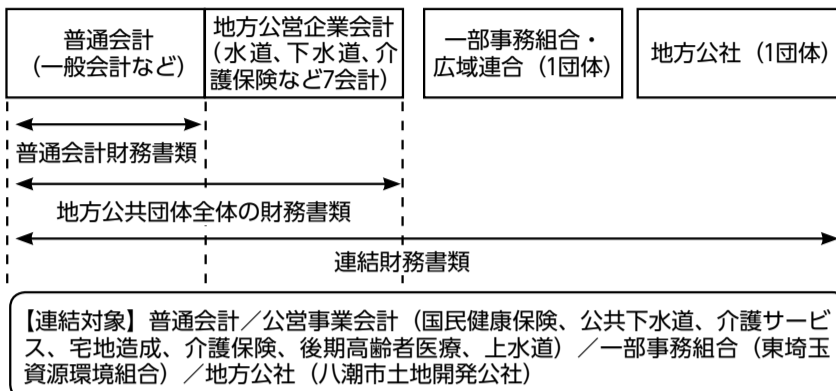
平成26年度決算による連結財務書類を作成



市では、国の指針に基づき自治体の会計の透明性を高めるため、連結財務書類4表を作成しました。
問財政課 ☎306

連結財務書類4表とは？

財務書類とは、民間企業の考え方を基に作成した市の決算書です。財務書類にはいくつかの作成方法がありますが、市では「総務省方式改訂モデル」に基づき作成しています。財務書類は、右図のように「普通会計財務書類」「地方公共団体全体の財務書類」「連結財務書類」の3つに分けられます。連結財務書類では、市だけではなく出資法人などの関係団体も含まれます。財務書類4表とは、1.行政コスト計算書、2.資金収支計算書、3.純資産変動計算書および4.貸借対照表を指します。



1.行政コスト計算書

行政コスト計算書は、平成26年度に八潮市と関係団体がサービスを提供するために費やしたヒト・モノ・カネの状況を示しています。経常収益には公営住宅の家賃などサービスの対価だけが計上され、税金は計上されません。

経常行政コスト 411億9千万円

内訳	①人にかかるコスト (職員給料、議員報酬、平成26年度に増えた退職金の金額など)	54億円
	②物にかかるコスト (消耗品費、臨時職員の人件費や委託料など)	116億6千万円
	③移転支的的なコスト (社会保障給付、補助金など)	224億4千万円
	④その他のコスト (公債費の利子など)	16億9千万円

経常収益 (使用料、手数料など) 139億1千万円

純経常行政コスト (経常行政コスト－経常収益) 272億8千万円

2.資金収支計算書

資金収支計算書は、現金の流れを示しています。

期首資金残高 (平成25年度末の手持ち資金) 53億7千万円

当期収支 (①+②+③) 8億8千万円

①経常的収支	76億8千万円
②公共資産整備収支	△21億1千万円
③投資・財務的収支	△46億9千万円

期末資金残高 (平成26年度末の手持ち資金) 62億5千万円

3.純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に純資産がどのように増減したかを示しています。

期首純資産残高 (平成25年度末純資産額) 1,189億5千万円

+

当期変動高 (平成26年度中の資産の増減)

①純経常行政コスト	△272億8千万円
②一般財源等(市税、地方交付税など)	180億9千万円
③補助金等収入	116億6千万円
④臨時損益	△4千万円
⑤資産評価替・無償受入	△1億7千万円
⑥その他	△72億4千万円
合計	△49億8千万円

||

期末純資産残高 (平成26年度末純資産額) 1,139億7千万円

(期首純資産残高+当期変動高)

4.貸借対照表

貸借対照表は、どれだけの資産や現金があるか、その資産がどのような財源で構成されているのかを示しています。下の表は左に市の資産、右に負債と純資産を示しています。

資産		負債	
1,880億円		740億3千万円	
※現在、市が保有している財産		※借入金など、将来世代が負担する金額	
内訳		内訳	
①公共資産 (道路、学校、公園など)	1,553億1千万円	①固定負債 (市債など)	655億2千万円
②投資等 (基金、出資金など)	137億3千万円	②流動負債 (翌年度償還金など)	85億1千万円
③流動資産 (手持ち資金62億5千万円、未収金など)	189億6千万円	純資産	
合計		1,139億7千万円	
1,880億円		※これまでの世代がすでに負担した金額で次世代に引き継ぐ正味価値の総額	
合計		合計	
1,880億円		1,880億円	



これらの表から分かること

- 経常行政コストでは、社会保障給付など福祉のコストが約57.2パーセントを占める高い割合になっています。
- 市民1人当たりの資産は約219万円、負債は約86万円です。